

船舶事故調査報告書

平成28年1月14日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 庄 司 邦 昭（部会長）

委員 小須田 敏

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成27年1月15日 07時00分ごろ～12時04分ごろの間）
発生場所	不明（青森県 ^{おおま} 大間町大間港～同町弁天島の間）
事故の概要	漁船 ^{りょううん} 漁運丸は、船長が落水して死亡した。
事故調査の経過	平成27年1月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 漁運丸、3.30トン AM3-17699（漁船登録番号）、個人所有 10.30m (Lr) × 2.22m × 0.63m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数70、昭和55年3月1日
乗組員等に関する情報	船長 男性 73歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年8月20日 免許証交付日 平成23年1月20日 (平成28年11月7日まで有効)
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	船首部に破損
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、水温 約5℃
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、一本釣り漁のため、平成27年1月15日07時00分ごろ大間港を出港し、12時04分ごろ、弁天島東岸において無人の状態で乗り揚げているところを大間漁業協同組合所属の僚船に発見され、同組合に通報された。 船長は、僚船が捜索していたところ、13時10分ごろ、本船発見場所から西南西方約2,500mの海上で救命胴衣を着用した状態で浮かんでいるのを発見され、組合所属監視船に揚収の後病院に搬送された。 船長は、14時20分に死亡が確認され、死因は溺水と検案された。

	<p>本船は、監視船によりえい航されて大間港に帰港し、後日、解てつされた。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
その他の事項	<p>本船は、発見当時、機関が停止しており、船体には他船と衝突したような痕跡は認められなかった。</p> <p>船長は、ふだんから1人で一本釣り漁に出掛けていた。</p> <p>船長は、発見時、外傷は認められなかった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長の死因は、溺水であった。</p> <p>本船は、船長が1人で乗り組み、07時00分ごろ大間港を出港した後、12時04分ごろ、無人の状態で弁天島東岸に乗り揚げているところを発見されていることから、この間において、船長が落水したものと考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、落水して溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が大間港を出港した後、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1人乗りの漁船では、防水型携帯電話等を常に身に付け、連絡手段を確保しておくことが望ましい。

付図1 事故発生場所概略図

